

平成28年度事業報告

甲 寿 園

1. はじめに

事業方針説明を3日間（4月6日、7日、8日）行い、114名の職員が参加しました。

地域の皆様に施設を身近に感じて頂くことができるように平成28年5月20日、「春フェスタ」を開催し、また、自治会や地域の取り組みに積極的に参加しました。平成29年3月18日、「平成28年度鷲林寺・剣谷・柏堂地域連合自主防災会防災訓練」の準備は甲寿園に各自治会長の方が集まり、園も参加して進めたことにより地域の住民の皆様が初めて甲寿園を知る良い機会となりました。

「わいわい広場」、「アクティブルーム」は、通所介護利用者、特養入居者のレクリエーションやリハビリテーションの場として活用しています。また、地域住民の防災訓練の場としても活用しています。

昨年に引き続き事業目標を達成することができたのは、介護職員、看護職員、生活相談員、そして直接介護以外の職員を含め、甲寿園の職員全員の事業目標に対する意識の高さの結果だと捉えています。以下、事業を推進した平成28年度の報告を行います。

2. 事業報告

1) 特別養護老人ホーム

入居目標数と利用率、入居者の介護度について入所検討委員会で検討し効率よく、速やかな入居を進めます。

(ア) 特別養護老人ホーム（定員168名）の入居者は、年間を通じて1日平均164名（利用率98%）を目標とします。入所検討委員会を毎月開催し入居予定を決定します。

利用状況 入所検討委員会（定期・随時）開催 13回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1日平均	163.9	164.3	165.8	166.1	166.3	167.3	165.4
利用率%	97.6	97.8	98.7	98.9	99.0	99.6	98.5

	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
1日平均	166.3	164.5	166.1	166.5	166.5	165.8	165.4
利用率%	99.0	97.9	98.9	99.1	99.1	98.7	98.5

利用者の介護度の状況

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
実人数	2	15	67	46	37	168
割合%	1	9	40	28	22	100

利用者の男女数

男性 23	女性 145	合計 168
-------	--------	--------

待機者の状況

男 性	96 (143)	女 性	146 (256)	合 計	242 (399)
-----	----------	-----	-----------	-----	-----------

⇒利用率98%の目標通りに入居計画は進みました。待機者の状況を正確に把握し、常に入居者を確保できるよう入所検討委員会を毎月（定期・随時）開催しました。空床に対する意識はフロアの介護職員も高く、園全体で入居対策を行うことができます。8月より、生活相談員が産休に入りましたが、育児休職から復帰もあり、3名の生活相談員体制と特養介護支援専門員2名体制を維持しました。入居者に対するケアプラン作成、カンファレンスを実施しました。特養介護支援専門員は、フロア介護職員と連携しながら介護状態を把握し、要介護変更を速やかに行いました。

(イ) 嘱託医師、常勤医師による日常的な健康相談により疾病を早期発見し治療につなげます。

⇒医師体制を維持し、嘱託医師との連携を図るため園として懇談を持ちました。

(ウ) 介護職員を適切に配置し、丁寧で優しい援助を行えるようにします。

⇒病気休業の正規介護職員2名、嘱託介護職員2名、パート介護職員4名の退職に対し、ハローワークや人材派遣会社に求人随時行いました。パート介護補助職員を3フロアに1名ずつ配置しました。特養、通所介護、短期入所生活介護の職員全体で不足しているフロアの勤務をカバーしました。

(エ) 園内異動を定期的に行う事により、フロアの活性化を図ります。異動時期は、4月～7月、10月に行い、介護サービスに混乱が生じないようにします。

⇒園内人事異動は役職者4月、介護職員については、7月までに順次異動を行いました。

(オ) 入職5年から10年の職員に対し、リーダー養成研修を行います。

(カ) 言葉づかいと接遇マナーは、高齢者に対する尊厳を守る基本であり、日々、お互いに点検し合える環境をつくります。サービス向上委員会を隔月開催します。

(キ) 感染症、食中毒の発生を防ぐため、感染対策委員会を隔月開催および必要時に随時に開催します。

⇒感染対策委員会を開催し、食中毒対策として6～7月に手洗い評価を行いました。

(ク) 入居者を安全に介護するために取り扱いの研修を実施し介護リフトを有効に活用します。

(ケ) より良い介護を実現するために職員が意見を述べ、実践できるチームケアを確立します。

(コ) 兵庫県第三者評価事業および兵庫県老人福祉事業協会サービス評価事業受審結果を踏まえサービス向上委員会を毎月開催し、介護サービス向上をさらにめざします。

⇒(カ)(ケ)(コ)言葉づかいと接遇マナーについて、研修、各種会議で管理者役職者が重要性を話し、職員全体での努力目標としました。サービス向上委員会は隔月に実施しました。

2) 在宅支援課

平成28年5月20日(金)、春フェスタを民生委員・児童委員、保育園、自治会と連携し開催します。地域に目を向けた市民講座を行うことや市民、介護事業者に対する支援を進め、在宅支援課として各事業をアピールし、安定した事業運営ができるようにします。稼働率を引き上げるために各事業が協力し合えるように情報交換を行います。在宅の利用者が安心して、通常の暮らしを継続して頂くことができるよう支援を進めます。また、地域連携の今後のあり方について在宅支援課を中心に検討を進めます。平成29年度からの総合事業に向けた取り組みを進めます。

⇒第4回「春フェスタ」を5月20日に開催し、地域住民、他施設の利用者、職員、介護支援専

門員の皆様の参加を含め、約300名の参加がありました。

地域貢献プロジェクトチームが検討を行い、立ち上げた健康カルチャークラブ「ハイカラ倶楽部」は、9月19日、10月6日、10月13日の3日間開催しました。1日定員10名で3日間で延べ25名の参加がありました。

日本音楽療法学会・認定音楽療法士の米津多美先生をスーパーバイザーとして、「デュアルタスク」をテーマに掲げました。「デュアルタスク」は、同時に2つの事を行うと脳に適度な混乱が起こり、普段使われていない脳が活性化し、認知機能をアップさせる効果があると言われています。ストレッチ体操、太鼓演奏、歌とウクレレ、リズムステップ、楽器と俳句などを楽しんで頂きました。参加者は体を動かして汗をかいた後には、リラクゼーションやお茶会でハーブティーを飲みながらのおしゃべりタイムを楽しまれました。開催希望が強かったため1月19日に臨時で開催しました。

(ア) 短期入所生活介護（定員14名）

利用は、月平均15名、月平均110%を目標にします。特別養護老人ホームの空床を利用し利用者を増やします。作業療法士を配置し、リハビリテーションを充実させ、介護報酬加算を取得します。介護者の病気や虐待などに対し緊急短期入所を積極的に受け入れます。在宅での暮らしを支援するために、利用者とその家族の気持ちを尊重します。

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1日平均	15.6	17.4	16.1	17.0	17.9	17.9	19.0
利用率%	111.4	124.3	115.0	121.4	127.9	127.9	135.7

	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
1日平均	17.8	18.6	17.3	18.0	16.5	17.4	16.1
利用率%	127.1	132.9	123.6	128.6	117.9	124.3	115.0

緊急短期入所生活介護 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
相談件数	1	2	3	4	1	5	0
緊急受入件数	1	1	0	3	1	3	0

	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
相談件数	0	2	3	4	0	25	26
緊急受入件数	0	2	2	2	0	15	14

⇒短期入所生活介護事業の生活相談員が在宅の利用者との相談窓口になり、安定した利用ができました。特養入所と空床利用の短期入所について特養生活相談員と連携し取り組みました。緊急短期入所生活介護を積極的に受け入れました。

(イ) 通所介護（定員28名）

利用は、1日23名、月平均83%の利用率を目標にします。通所介護サービスを希望す

る在宅高齢者の要望を速やかに応える体制を整え、ケアプランに沿った援助を行い、居心地の良い環境を整備します。作業療法士を配置しリハビリテーションを充実させ、甲寿園通所介護事業の特徴となるようにします。目標を達成するために管理者、生活相談員、役職者が居宅介護支援事業所、地域住民に宣伝（チラシ、デイ便り）を行います。

特養配置の理学療法士、作業療法士と連携し、レクリエーション、機能訓練を充実させ、通所介護に来て楽しく、充実した時間を過ごして頂きます。

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
開所日	26	26	26	26	27	26	26
1日平均利用者	26.5	26.3	26.4	24.0	23.9	24.1	24.7
利用率%	94.6	93.9	94.3	85.7	85.4	86.1	88.2
介護予防(実数)	134	113	96	105	103	92	104

	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
開所日	26	26	25	24	27	26	26
1日平均利用者	24.5	25.0	24.4	24.9	24.0	24.9	24.6
利用率%	87.5	89.4	87.3	89.0	85.8	89.0	87.7
介護予防(実数)	87.5	89.3	87.1	88.9	85.7	88.9	87.9

⇒利用者数は、利用目標の1日23名、月平均83%を超える利用状況となりました。通所介護事業職員、生活相談員が目標にこだわり、利用されている方々への丁寧な支援が結果として表れました。

(ウ) 居宅介護支援

介護支援専門員1名を配置し、要介護35件、認定調査委託月8件 介護予防6件の受託を行います。ケアプラン件数を増やし、適切な時期に2名体制を確立します。平成29年度には、常勤3名の居宅介護支援事業所（特定事業所加算）を確立します。

利用件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ケアプラン数	36	36	35	35	33	30	34
予防プラン数	6	5	5	5	6	6	6
ケアマネ人数	1	1	1	1	1.2	1.2	1.2

月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
ケアプラン数	37	37	34	33	35	34.6	33.9
予防プラン数	6	6	6	6	6	5.8	5.1
ケアマネ人数	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1

⇒当初計画では、特養生活相談員が異動し、8月より2名体制を予定していましたが。特養生活相談員1名が産休に入ることとなり、計画を見直すこととなりました。兼務体制を実施し、ケアプラン、認定調査を少しずつ、増やしました。新年度の4月に3名体制でのスタートを準備するために3月、介護支援専門員1名、嘱託採用を行いました。また、特養嘱託職員を

居宅介護支援事業所に異動できるよう準備を行いました。

3) 看護課

特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護の入居者の重度化に対応できるよう看護職員体制を充実させます。

- (ア) 入居者が安心して暮らすことができる健康管理・衛生管理を充実させます。
- (イ) 看護課長の指導のもと、主任、副主任を配置し、看護師9名以上で安定した看護体制を確保します。

⇒平成28年度は、看護課長（非常勤）副主任2名体制で、利用者、入居者の健康管理・衛生管理を行いました。副主任配置から1年が経過し、役割を認識し、主体的に多職種連携の調整に努め、また、ご家族とのコミュニケーションを図り、入居者、家族が安心して生活を送ることができるようにリーダーシップを発揮しました。入居者に質の高い看護を提供するために、施設外研修（85%参加）や園内研修（嚥下困難食の研修）を企画・実施しました。感染対策の基本は「手洗いの徹底」ということであり、6月から7月にかけて、手洗い評価（5回目）をグリッターパグを使用して厨房調理師（委託業者）を含む全職員を対象に実施しました。結果としては、93%の職員が手洗いについて上達しました。感染防止の三原則「感染を持ち込まない」「感染源を断ち切る」「感染を持ち出さない」の徹底に努め、感染症の発症はありませんでした。

4) 栄養室

高齢者に対し安全で美味しい食事を提供します。

- (ア) 管理栄養士の配置（常勤2名、非常勤1名）を引き続き継続します。栄養面での介護報酬加算を取得します。
- (イ) 北山学園の給食管理業務を栄養室が受託します。
- (ウ) 食事委員会を隔月に開催します。
- (エ) 厨房機器のメンテナンスを進めます。また、調理機材や食器を計画的に更新します。
- (オ) 食事形態（普通食、ソフト食（やわらか食）、ミキサー食）の4形態に見直します。
- (カ) バイキング食や選択メニュー食、行事食など季節感のある美味しい食事を提供します。

⇒管理栄養士（正・非常勤）と、高齢者への安全で美味しい食事提供を行いました。

厨房機器のメンテナンスを進め、また、調理機材、食器を購入しました。事業計画に沿った運営を行いました。

5) 生活相談室

入居者、利用者、入居待機者、家族の相談の窓口として安心して頂ける対応をします。年間を通じて安定した入居計画を進めます。

- (ア) 生活相談員3名、介護支援専門員2名、通院介助補助員1名の体制とします。
- (イ) 特別養護老人ホームの入居待機者に対する面接を円滑に進め、安定した入居を進めます。
- (ウ) 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院等を訪問し、甲寿園の各事業説明や入所申し込み説明を行います。
- (エ) 入居待機者情報を適正に整備し、待機者に「甲寿園だより」などの情報を提供します。
- (オ) 特別養護老人ホーム入居者の家族懇談会を4月15日、16日に開催します。

⇒5月に生活相談員が育児休職より復職しました。8月に1名産休続いて育休に入りましたが、生活相談員体制は維持しました。入所検討委員会を13回開催し、入居予定を決定し、目標数値を維持、又は超える努力を積み重ねています。通所介護、短期入所生活介護の生活相談員との連携を円滑に行い、入退所管理の数値表を毎月の業務連絡会議に提出し、全体での共有を行いました。

6) リハビリテーション室

特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護でのリハビリテーションが充実した施設となるよう発展させていきます。

(ア) 作業療法士3名、理学療法士1名、リハビリテーション補助員2名と各フロアのリハビリテーション委員が中心となり、入居者の生活リハビリテーション、作業療法、理学療法の充実を図ります。

(イ) 作業療法士養成学校の実習生を受け入れます。

(ウ) 短期入所生活介護事業の機能訓練を作業療法士が担当し機能訓練加算を取得します。

⇒作業療法士(正・非常勤)3名、理学療法士1名、リハビリテーション補助員2名が利用者入居者のリハビリテーションを支援し、充実させています。短期入所生活介護利用者の自宅訪問を行い、相談にも応じ、短期入所生活介護利用中のリハビリテーションを実施し、好評価を得ています。介護報酬では、機能訓練加算を取得しました。リハビリ・ミニ研修を4回行い、天井走行リフトや移乗ボードの使い方等、介護職員への研修を行いました。

7) 設備用務室

日常的な建物、設備等の管理を適切に行い、保全メンテナンスに努めます。さらに甲山地区の各事業所と連携し、甲山地区全体の環境整備を行います。

(ア) 職員間の連携を強め、設備、環境面のメンテナンス業務を円滑に進めます。

(イ) 運転業務を安全に行えるよう安全運転教育を進めます。

(ウ) 設備、介護備品、車両の点検を行い、安全に使用できるようにします。

⇒園内外の保守、修理を行い、介護職員の要望に応えました。短期入所生活介護事業、通所介護事業の利用者を安全に送迎しました。

8) 事務室

園の窓口として笑顔で礼儀正しい接遇を行います。

(ア) 職員間の連携を強め、勤怠、請求、経理などの事務業務を円滑に進めます。

(イ) 来客者、家族、利用者、入居者に対し、心地よい接遇マナーを重視します。

(ウ) 事務室を整理整頓し、個人情報管理を適正に行います。

⇒事務室運営は副園長2名、介護課長1名、看護課長(非常勤)1名、事務員3名が園の窓口として笑顔で礼儀正しい接遇を行いました。

9) にしのみや苑との連携を深めます

地域の高齢者に対する支援を共同して推進するために管理職員、役職員の連携を進めます。

(ア) 毎月、合同管理者会議を行い、高齢者介護事業の連携を図ります。

⇒7月8月9月以外の月は実施しました。

各施設の利用状況や甲山地域の防災対策、春フェスタ等について協議しました。

(イ) 職員研修、交換研修を合同で行います。

⇒にしのみや苑介護職員の研修を受け入れました。

(ウ) 各職種、業務の連携を進めます。

⇒照明機器の更新では、共同で入札事務を行ないました。第4回春フェスタは共同で開催し地域住民との連携を深めることができました。

自治会総会へ出席しました。

10) 研修

法人理念「人が人として人とともに豊かに生きる」を基本とし、地域に貢献できる視野の広い職員となるよう研修委員会を中心に毎月研修を進めます。

(ア) 職員研修は、年間計画に沿って実施します。年間計画は、研修委員会が作成します。

⇒毎月、職員研修会を実施しました。新任研修（4月1日、4日、5日、4名）職務倫理（6月23日、21名）吸引（6月30日、12名）緊急時対応（7月28日、15名）新職員フォローアップ（7月6日、10名）高齢者虐待防止（9月1日、15名）カラオケ体操（9月1日、1名）紙おむつ（9月21日、10名）リスクマネジメント（10月20日、11名）園内実践研究発表会（10月27日、26名）感染対策（11月29日、15名）脳卒中（12月5日、20名）看取り（1月26日、16名）レクリエーション技法（2月23日、11名）リスクマネジメント。身体拘束廃止年間まとめ（3月23日、15名）

(イ) 介護教育研究会とスーパーバイザー契約を行い、認知症ケアの充実、介護の質の向上を計画的に進めます。

⇒新任職員研修（4名）、認知症サポーター養成研修（4月5日・10名 10月20日・7名）を実施しました。

(ウ) 職員は、社会性と専門性を高めるため自己研修制度を活用し研鑽に努めます。また、必要な資格を取得し、自らのキャリア・アップに努めます。（介護職員初任者研修・介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員・社会福祉主事・認知症ケア専門士・商業簿記他）

(エ) 音楽療法の研修を進め、わいわい広場、アクティブルームを活用し、入居者、利用者、地域の高齢者に対する取り組みを行います。

⇒音楽療法研修会を開催しました。

5月16日（6名）、6月16日（6名）、9月12日（11名）、10月17日（10名）
11月21日（10名）

職員研修

	回数（前年度）	参加人数（前年度）
園内研修	36（54）	459（852）
外部研修	63（64）	121（126）
自己研修		13（11）

実習生受け入れ

介護福祉士	初任者研修	相談援助	介護等体験	栄養士	トライやる
8 (12)	6 (8)	1 (5)	25 (26)	0 (0)	7 (7)

介護福祉体験（園田学園）	福祉授業（西宮北高等学校）	作業療法学科基礎臨床	薬剤師	合計
95 (146)	15 (15)	3 (0)	7 (6)	162 (225)

11) 社会貢献、地域連携、情報公開、ボランティア支援

地域との関わりを常に重視し、市民の要望を聞き、高齢者福祉施設としての役割を發揮し社会貢献活動を進めます。

(ア) 地域交流スペース、わいわい広場、アクティブルームを市民に活用して頂けるようにします。六甲東山麓にある自治会と防災協力を行い、自治会の皆様に活用して頂きます。

(イ) 福祉避難所としての役割を地域住民に周知していきます。

⇒地域自治会の依頼で、防災の会議を「わいわい広場」を活用して行いました。「大雨洪水、土砂災害の避難準備」発令時、西宮市防災危機管理室より依頼を受け、地域住民の避難所をあいあいホールに2回、開設しました。地域住民の避難はありませんでした。

地域連合防災会（剣谷・柏堂・鷲林寺）が主催となり、甲寿園の施設を活用して地域防災訓練を準備し、3月18日（土）地域防災訓練を園庭で開催しました。自衛隊（ジープ1台、2名、北夙川消防署（消防車1台、5名）西宮市（防災2名、給水車1台、2名）兵庫県議会議員、西宮市議会議員、地域住民、子ども会、合わせて150名の参加がありました。初めて甲寿園を訪問した住民が多く、園のことを知って頂く機会にもなりました。

(ウ) ボランティア活動に多くの市民に協力して頂けるようにします。また、ボランティアの養成を行います。ボランティア感謝の集いは、「歓びの会」（敬老会）に開催します。

⇒9月19日「歓びの会」にボランティアの皆様を招待し、感謝のつどいを開催しました。

(エ) 市民向けの介護技術、認知症ケア、認知症サポーター養成等の公開講習会を企画します。

⇒10月20日、認知症サポーター養成講座を地域の皆様に公開して開催し、7名が参加しました。

(オ) ホームページと甲寿園公式フェイスブックを毎月更新します。また、「甲寿園だより」の毎月発行を継続することと「平成27年度事業報告集」を発行します。

⇒「平成27年度事業報告集」を9月1日、発行しました。ホームページ、公式フェイスブックの更新を行いました。

12) 備品、設備、環境整備を行います

園の環境整備は、入居者だけではなく地域に開かれた施設として、市民に気持ち良く活用して頂けるようにします。

(ア) 北館廊下の照明をLED照明に転換します。

⇒1月に実施しました。

(イ) 北館床頭台の照明灯器具を交換します。

⇒7月に実施しました。

(ウ) フロアの必要な居室等の環境修繕を計画的に進めます。

(エ) 南館2階浴室(特殊浴槽)の更新を行います。

⇒北館2階特殊浴槽を今年度実施しました。南館2階特殊浴槽は、次年度に変更しました。

(オ) リハビリテーションに必要な器具を購入します。

⇒車いす、移乗シート、リフト用シート等を購入。

(カ) 厨房機器のメンテナンスを進め、必要な機材を購入します。

⇒機材・食器を購入しました。

(キ) 送迎車両の更新と新たに通所介護事業専用車両を購入(リース契約)します。

⇒通所介護事業専用車両(リース契約)と計画では記載しましたが、これは特養ホーム専用車両の間違いで、予算計上では、特養ホームとなっていました。送迎車両の更新は行いました。

(ク) 3名常勤体制のための居宅介護支援事業専用の事務室を設置します。

⇒3月に居宅介護支援事業所の事務室を設置し、新年度からの3名体制の準備を行いました。